

# 令和5年度第3回はちのへ文化のまちづくりアドバイザーボード 会議録

日時 令和6年2月22日（木）10:15～

会場 美術館（スタジオ）

## <次 第>

### 1 開 会

### 2 会 議

#### (1) 報告事項

「はちのへアート広場」令和5年度第2回ひろば交流会 開催報告

はちのへ文化のまちづくり推進事業補助金の活用状況について

#### (2) 議題

令和6年度文化芸術施策の事業計画について

### 3 その他

### 4 閉 会

---

## 1. 開会

- ・はちのへ文化のまちアドバイザーボード規則第5条第2項により、委員の過半数が出席しているため、会議が成立していることを報告。
- ・配布資料の確認

## 2. 会議

### <委員長あいさつ>

- ・おはようございます。
- ・足元の悪い中、お集まりいただきありがとうございます。
- ・東京は、昨日は最高気温23度もありましたので、気温差が20度ぐらいで、皆さん体調管理に気をつけていただければと思います。
- ・それでは早速、次第に従って会議に入りたいと思います。

### <報告事項>

- ・まず最初ですね、(1)の報告事項ということで「はちのへアート広場」について、令和5年度第2回ひろば交流会の開催状況及び、はちのへ文化のまちづくり推進事業補助金の活用状況について事務局から報告をお願いします。

## <事務局>

- ・ それでは、資料の1枚目、報告事項1と書いてある資料をご覧ください。
- ・ 「はちのへアート広場」令和5年度第2回ひろば交流会の開催報告を行います。  
2回目のテーマでございますが、「オルタナティブな文化拠点・活動とその可能性」で、これまでの文化活動や公共の文化施設とは異なる、型にはまらない新しい分野ですとか、異業種との交流などにより、個性的な取組を行っている方々をご紹介させていただきました。
- ・ 昨年12月15日に開催いたしました。
- ・ 場所は柏木旅館、市内の旅館をお借りしました。
- ・ 柏木旅館さんは大正8年に創業されたということで、実際会議を行った場所はですね、元々は客間で、その後物置として使用していたということですが、さらにそれを改修して、小ホールとして使っているということで、演劇ですとか、ダンス、音楽演奏などを開催したこともございます。
- ・ その場所でアート広場を開催いたしました。
- ・ 開催プログラムの方をご覧ください。今回も太下委員長にコーディネーターとして、ご参加いただきました。
- ・ 事例発表はご覧のとおりで、委員の小倉委員に参加していただきました。
- ・ 資料の裏面をご覧ください。内容としまして、何点が取り上げさせていただきます。
- ・ 元々文化や芸術は日常にあるもので、身近にあるもの、美術館に行かないと、芸術に触れられないというものではない。例えば飲食店で食事をしていて、展示している絵が目に入る。このくらいのことでも芸術に触れている。
- ・ アート活動への参加はハードルが高くはないが、高いというイメージ、先入観があると感じる。知っている人がいる、知っている人がやっているというだけで、ハードルは7割無くなると思う。その程度のものだと思っていいと思う。
- ・ 演劇や絵を書いたりすることは、一般的な考えからすると、衣食住足りてからやるものという意識があると思うが、そうではなく、心の隙間ができたときに絵を書いたり、歌を歌ってみたり、体を動かしてみたりというレベルがアートだと思います。  
ハードルが高いわけではなく、そこら辺にあるもの、それぞれ個々が持っているものがアートだと思う、というような参加者からの意見がありました。
- ・ 「はちのへアート広場」第2回目の開催報告は以上ですが、第3回目が、明日2月23日に開催されます。場所は、「はっち」の1階をお借りしまして、アート広場第3回目を開催いたします。
- ・ テーマは、「誰もが文化芸術を創造し、享受することができる環境整備を巡って」ということで、福祉と連携したノーマライゼーションの取り組みなど、際限なく誰でも気軽

に文化芸術に親しめる機会の創出についてみんなで考えます、というテーマで開催いたします。ちなみにこちらもコーディネーターは、太下委員長です。

- ・また、パネリストとしまして、県内で障がい福祉、障がい者施設の取り組みをしている団体ということで、青森県五所川原市にあります「青森県障害者芸術文化活動支援センター」の社会福祉法人あ〜んど、こちらの代表であります大橋様ですとか、市内でNPOを運営されてます「NPO法人はちのへ未来ねっと」の平間さんに、パネリストとして参加いただく予定でございます。

- ・報告事項1については以上となりまして、続きまして報告事項2ですが、資料ですと、2ページ目をご覧ください。

こちらは八戸文化のまちづくり推進事業補助金の活用状況についてです。これまでの会議でも質問がありましたし、色々なご意見をいただいているところなので、今年度の金額、件数等が確定いたしましたのでご報告いたします。

- ・こちらの補助金ですが、補助金としては一本ではあるんですが、中身は3つに分かれております。
- ・補助金の概要としまして、演奏会に対する支援、大会出場に対する支援、そして、文化芸術活動に対する支援ということで、それぞれ条件等は記載のとおりでございます。
- ・令和5年度の補助実績でございますが、予算額が120万円に対し、申請申し込み、実施実績としましては11件、89万9000円となる予定でございます。
- ・（1）演奏会に対する支援は38万9000円で、内訳はご覧のとおりです。
- ・（2）大会出場に対する支援は22万円で、こちらはですね、全国の吹奏楽の大会ですとか、国民文化祭、こちらへの支援などが主なものになっております。
- ・あと3番目の文化芸術活動に対する支援ということで、こちら29万円になる見込みでございまして、と申しますのが、この中の3番ですね、茶道の部分が3月の開催になっておりましたので、ここの額は予定ということで見込み額、29万となっております。
- ・ちなみにこの3番に関しましては、それぞれの活動がタイトルだけではこういった内容かわかりづらいと思ひまして、裏面に概要を記載しております。
- ・1番目の「八戸ペンクラブ」さんは、創立20周年記念誌「北創遊筆Ⅱ」を発行するというので、そちらの記念誌作成に対する支援、記念誌作成及び記念の文化の講演開催です。また記念誌は、近郊の図書館ですとか、市内小中学校の方に配布するという内容でございました。
- ・2番目の久保田様ですが、こちらはペーパーフラワーですねということで、市内の小中野にあります「ソウルランチ新丁」で、作品の展示を行うというもので、こちらも3月下旬に開催と伺っております。

- ・ 3番目が表千家青森県支部さんからの申請で「ひな祭り茶会」ということで、市内の主要な茶道の5団体が連携をして、ひな祭り茶会を開催するという内容で、場所は「はっち」で3月10日に開催予定ということになっております。
  - ・ 今年度の文化のまちづくり事業補助金はこちらで確定ということで、報告をさせていただきます。
- 以上になります。

#### <委員長>

- ・ ご報告ありがとうございました。
- ・ 今、事務局の方から2件、はちのへアート広場と、それから補助金について説明がありましたけど何かご質問とか、よろしいでしょうか。
- ・ それではご質問は無いようですので次の議題に入りたいと思います。
- ・ それでは、令和6年度の文化芸術政策の事業計画について事務局からご説明をお願いしたいと思いますけれども、各課・施設ごとにご説明いただいて、委員の皆さんからそれぞれご意見・ご質問を伺うことにしたいと思います。
- ・ まず初めに、文化創造推進課からお願いします。

#### <文化創造推進課>

- ・ 文化創造推進課の来年度の事業についてということで、ご報告させていただきます。先ほどまで説明した資料の3ページ目になりますが、令和6年度文化創造推進課の主な事業について、をご覧ください。
- ・ 主な事業を説明いたします。
- ・ 1番目、プラットフォーム事業、「はちのへアート広場」ということで、こちらは令和6年度も引き続き開催いたします。事業計画としては、セミナー型ひろば交流会を年度内に3回開催を予定しております。
- ・ 今後、細かい部分は、委員の皆さんからのご意見等も踏まえて検討していきますが、開催場所は市内の文化施設ということで、「はっち」や美術館等を予定しております。
- ・ テーマとしましては、1回目がクリエイティブビジネスの振興ということで、市内の伝統工芸と文化関連産業について、企業やクリエイターをパネリストとして意見交換を行う。
- ・ 2回目としましては、地域に根付く伝統芸能。市内の郷土芸能団体の取り組みや課題、そちらについての意見交換。
- ・ 3回目は、食文化の継承というタイトルで、八戸にも伝統野菜や郷土料理がさまざま

ありますが、そちらの継承をテーマに意見交換を行うということで、全体では年度内に3回開催を予定しております。

- ・ 次のページをご覧ください。
- ・ 更上閣ガーデンレストラン開催事業です。
- ・ こちらも年間2回、今年度もご報告させていただきまして、トライアルということで実施したものでございますが、令和6年度はトライアルではなく、事業として開催いたします。
- ・ 内容としましては、更上閣敷地内にキッチンカーやテントを出店していただき、食事を提供するイベントを開催します。

また、期間中の夜間は、中心市街地の文化施設と連携しながら、音楽イベントを開催して、街に来る人を増やし、中心市街地の賑わい創出を図ります。

- ・ なお令和6年度は、引き続き主催イベントとして実施いたしますが、委員からもご意見ありましたとおり、将来的には民間主導イベントへの移行を目指しております。

こちらは以上です。

- ・ 続きまして、三陸国際芸術祭開催関連事業ということで記載させていただきました。
- ・ こちらはですね三陸沿岸地域の15市町村、八戸市も参加しております。  
三陸国際芸術祭推進委員会という組織があるんですが、そちらの中で開催地が順になっておりまして、八戸市が令和6年度開催していただけるということになっております。  
同委員会には、今川委員もディレクターとして関わっている事業になります。
- ・ 内容としましてはですね、広報事業とかも行っておりますが、三陸国際芸術祭開催がメイン事業になります。

- ・ 例年10月頃に、構成市町村のうち1市町村を会場として開催するもので、先ほど申し上げましたとおり令和6年度は八戸市で開催になります。

- ・ 内容としましては、令和6年10月の中旬、11日から13日のあたり、ここは連休になってますけども、そのあたりで調整中です。

- ・ 会場は、「マチニワ」「はっち」、更上閣、美術館前広場ということで予定はしてありますが、内容はこれから詳細決めていきます。

- ・ 主催は三陸国際芸術推進委員会となっております。

参加団体としましては、各15市町村から原則1団体の郷土芸能団体に集まってもらうということで、どの団体にするか照会をしている最中です。

- ・ なお令和6年度に関しては、オリジナル企画としまして、三陸沿岸のこの委員会には入っていないのですが、八戸圏域の周辺7町村も八戸圏域連携事業ということで、一緒に様々な活動取り組みをしているし、また郷土芸能も八戸市だけでやっている訳ではないので7町村からも1団体ですとか、そういった形で郷土芸能団体を招聘する予定で動い

ております。これは市独自の事業として予定しています。

- ・その他、3番にも付随しますが、関連しまして、島根県西部の石見地方に受け継がれている伝統芸能『石見神楽』の招聘も予定しております。
- ・こちらにつきましては、三陸国際芸術祭の併催というイメージではあったんですが、日程の都合で全く同じ日で開催できなくて、10月の芸術祭の翌週22日から23日に来ていただけるということで現在調整しており、八戸市公民館を予約しております。
- ・下の方を続けます。
- ・はちのへアートフォーラム開催事業と書いておりますが、こちらは新規事業になっております。
- ・こちらですね、文化芸術に果たす役割、市民1人1人にとって、また社会にとっての役割を問い直し、考え、共有する機会とするということで、アート広場とは違ってフォーラム的な形で一つ開催したいなと思い、企画しました。
- ・内容としましては、文化芸術に関する講演会の開催となっているんですが、幅広いテーマになりますので、令和6年度のテーマとしては、多少テーマが変わる可能性がありますが、企業メセナを取り上げたいと思います。
- ・日時としては、春先から7月頃までに開催ということで、すいません、まだ大まかな予定ですが、場所は「はっちひろば」又は美術館ということで予定しております。
- ・続きます。次のページをご覧ください。
- ・地域創造「ステージラボ八戸セッション」開催事業ということで、新規になるんですが、こちらは一般財団法人地域創造が主催になりますが、令和6年度初めて八戸市においてステージラボが開催されるということで取り上げました
- ・このステージラボは、全国の公共ホール・劇場で働いている方ですとか、地方公共団体の文化芸術担当者を対象とした研修事業ということで、毎年2会場で開催していると伺っております。
- ・今年ですと、3月に岡山市で開催いたしました、7月には東日本の中で選んでいただいて、八戸市でぜひ開催したいということで、お受けしたものでございます。
- ・日時はですね、これは固まっております7月2日から5日の4日間、「はっち」と美術館をメインに開催します。
- ・実施体制としましては、地域創造が主催で八戸市共催ということで、コースが2つあるそうで、ホール入門コースと自主事業コースということで、業務経験年数ですとか、本当に短い方と少し2～3年の方で分けて、全国から携わってる方を研修ということで、参加していただくという内容でございます。
- ・こちら、もうちょっと近くなりましたら改めてまたご報告いたします。
- ・文化創造推進課、文化グループについての報告は以上となります。

<委員長>

- ・はい、ご報告ありがとうございました。結構盛りだくさんでした。
- ・何かご質問ご意見ございますか。

<委員>

- ・三陸国際芸術祭について先ほどご説明がありましたけれども、私も八戸のプログラムにずっと関わっている関係から、今回もディレクターとして関わらせていただくことになってですね。さまざま予算関係の準備を、あとはどういったことをやるかっていうことで具体的なところもかなり進めていて、詰めているところなのですが、元々この予算がですね、文化庁の日本博の予算になっておりまして、2025年まで複数年間にわたって、この三陸国際芸術推進委員会についている予算で、それが原資となっで行われるものなんですけれども、その助成金の性質上ですね、インバウンドとか観光との連携っていうのが欠かせない要素みたいになっておりまして、ちょっとその取り組みについては今まで八戸は経験が少ないところなので、より街なかの方々とも連携して芸能をただやりましたよっていうだけじゃなくて、いろんな相乗効果が生まれるように皆さんの協力を仰いでやりたいと思っております。
- ・また詳細決まっていきましたらお知らせしたいと思えます。

<委員長>

- ・アドボ委員会もそのあたりに設定していただくと、良いかもしれません。
- ・他にご質問はございませんか。
- ・はい、どうぞ。

<委員>

- ・はちのヘアート広場に関してですが、先日参加したこともあって、前にも確か今川委員から話があったと思うんですけども、出席してみてもやっぱり意見を交換する時間、パネリスト同士もしくは参加してくださっている方々との意見の交換の時間や、その雰囲気作りっていうところは、まだまだうまくできていないような感じがしました。
- ・発表しても、時間も一杯になってしまう。
- ・明日は、確か2人だけなので、もう少し時間があるかもしれないですけども、特に来年度の第1回目のテーマっていうのは、クリエイティブビジネスの振興について、というところで、ここはまさにその意見交換し合うことによって、参加している方々もこういう形で起業したり、事業活動を始められたりっていうようなヒントを得られる可能性が非常に高いものだと思うんですね。

- ・なので、自由なこの発言のやり取りっていうものが、これまでより多くないと、本当に決まりきった形で終わってしまう。
- ・なのでその形を生かして、2回目3回目っていうものに繋げていただければ、という風に思います。

#### <委員長>

- ・はい、ありがとうございました。
- ・そうですね。小倉さんに登壇していただいた前は、パネリストは4人もいて、それもあって時間が足りなくなっていました。
- ・ちょっと、そうですね。運営の仕方も含め、後からご相談しましょう。
- ・他に何か、ご意見・ご質問ございますか。
- ・では次に進みたいと思います。ブックセンターさんからお願いします。

#### <八戸ブックセンター>

- ・八戸ブックセンターの音喜多です。よろしくお願いします。
- ・私の方から、元気な八戸づくり市民提案制度企画「本のまち八戸」魅力創出事業をご説明させていただきます。
- ・資料は、先ほどの文化創造推進課の資料の4ページ目の最後になります。
- ・こちらの事業につきましては、市の市民連携推進課という部署が主体となって行っている事業で、協働のまちづくりをテーマに、様々な目的を持って、市民の方から事業を提案していただいて、審査会を経て、それに対して助成金を出すという、そういった事業をやっています。
- ・そのなかでブックセンターにつきましては、毎年度、市の方で一つテーマを設定して、それに対して手を挙げていただいて市と協働して事業をやりませんか、というものをひとつ上げておまして、来年度「本のまち八戸」っていうのを掲げて様々な事業を行ってますけれども、それに関するような読書量を増やすとか、そういったものを目的とした事業はございませんかっていう私達でテーマを掲げまして、それに対して、2の内容にありますけれども、市内では読書会など行っている団体、今20団体ぐらいあるんですけれどもその連合会、八戸市読書団体連合会というところが手を挙げていただいたよというような形で、市側としてはブックセンターと図書館も一緒になって、協働で実施するという事業を来年度予定しております。
- ・2つ目のポチにありますけれども、一応今現在で予定しているのが市の公会堂をメイン会場にしまして、著名人によるトークイベント、それから図書館で主導するブックリサイクルのお話会とかですね、パネル展等と、そういった形で集中的にイベントを開催す

ることによって、市民を含めた方に来場いただいて、本に触れてもらうというような形のイベントを予定しています。

- ・これにつきましては、ちょっとゲストについては調整中なのですが、その方の書籍を販売するっていうのも、市内の民間書店にお願いするということで連携しながら、書店の活性化というのも含めております。
- ・こちらは来年の2月から3月の週末がメインになると思うんですが、そういった形でイベントを通じてですね、本に触れてもらうというそういった事業を来年度予定しております。
- ・以上になります。

<委員長>

- ・はい、説明ありがとうございました。ただ今のブックセンターさんの説明に、ご意見・ご質問はございますでしょうか。

<委員長>

- ・はいそれでは続きまして、八戸ポータルミュージアム「はっち」からご説明をお願いします。

<はっち>

- ・八戸ポータルミュージアムです。よろしくお願いいたします。  
資料をご覧ください。令和6年度八戸ポータルミュージアム事業についてという資料になります。
- ・「はっち」は、第3期の中期運営方針の他、まちづくりプラン、中心市街地のまちづくりビジョンなどを踏まえながら、以下の3つの分野に沿って多面的に事業の方を展開してございます。
- ・この次に続いておりますA3の大きな資料をご覧くださいと思いますけれども、この3分野を設けて、現在「はっち」がやっている事業を整理したのが、このA3の大きな資料になります。
- ・これらをやすることで、真ん中にあります8つの未来ということで、この目標に向かってそれぞれの事業を進めています。
- ・今日はですね、その中で1番の「文化とアート」の事業を中心に説明させていただきたいと思います。  
それでは前の資料にお戻りください。
- ・令和6年度の主な文化・アート事業でございますが、1番はパフォーミングアーツプロ

グラムというように書いております。

- ・ こちらはですね、「はっち」のシアター2での公演、あとは市内の小中学校等に出張ワークショップに出かけるアウトリーチを中心にした事業がこちらに書かれております。こちらはですね公募により公演者を募集しております、既に昨年11月にですね、募集をかけて、応募件数は67件でございました。
- ・ その中から、この3つの団体を選ばせていただいております。
- ・ 演劇の団体に面白い団体さんがおりましたので、今回はですね、演劇の団体が中心になります。
- ・ ①のタテヨコ企画さん、こちらは「谷繁2」ということで、9月に公演をいたします。馬鹿馬鹿しさの中にも垣間見える親子愛や夫婦の情愛ということで、ちょっと人情噺のような、ちょっと変わったような話だそうです。
- ・ 2番目のPANCETTA（パンチェッタ）さんは、演劇「声」ということで、12月に公演がございませけれども、ちょっと真ん中の写真にあるとおり、男性3人でやるのですが、色々な音、声、こういったもの繋げて短編集のような形で連作で見せるという、これもまたちょっと変わったような演劇になっております。
- ・ 3番目のアトリエ・センターフォードさん、こちらは演劇落語ということで独特な分野でございませけど、「宿屋の仇討ち／抜け雀」という2つの作品を年明け3月に開催することになっています。
- ・ 裏面をご覧ください。
- ・ (2)といたしまして、共生社会プロジェクト「はっち de にゅ～盆踊り」というプロジェクトにチャレンジしてみようと思っております。
- ・ これは新規事業として来年度行いますが、年齢や障がいの有無に関わらず、等しく学術に触れ関わる機会を創出したいということで、親しみやすいモチーフということで「盆踊り」を取り上げまして、「はっち」らしいダンスイベントという形で、8月23日に開催しようと考えております。
- ・ 現在、参加者についてはですね、よく「はっち」で物販をされているコスモス園とかですね、そういった知的障害の方の施設にお声がけをしてですね、そういった方と、後は正調の盆踊りをやる泉先生とかですね、そういった団体さんとコラボ出来れば良いなということで計画を進めております。
- ・ (3)番、キッズダンスプロジェクト「舞台づくり学校2024」です。これは今年度も実施しました。「プロジェクト大山」というダンスカンパニーがプロデュースしました。小学生を中心に1か月半かけて、衣装・音楽・ダンス制作を行って、その成果を発表するもので、大変好評でしたので来年度も引き続き実施するもので、夏休みの7月下旬～8月に制作、9月に発表公演を予定しております。

- ・ 2つ目の伝統文化プログラムをご紹介します。
- ・ 天羽（あもう）やよい展- 名もなき南部女に捧げる刺しの花-というタイトルになっております。こちらは、南部菱刺の伝統工芸士であります「天羽やよい」さんにスポットを当てた展示会を9月に開催したいと考えております。
- ・ 「はっち」の中に、工房「澄」という南部裂織のテナントが入っておりますが、今回は菱刺しの方を取り上げたPR展示をしたいと考えております。
- ・ その下には、主な上半期の事業を掲げてございます。
- ・ 5月は「マチニワ」で舞妓さんの披露があり、10月の「酔っ払いに愛を」は、今年は10月4日、5日の予定になっておりまして、夏休みを含め、中心街のイベントと絡めた様々な事業を行う予定です。
- ・ 以上で説明を終わります。

#### <委員長>

- ・ ご説明ありがとうございました。
- ・ かなり多くの企画があつて、とてもいいですね。
- ・ 「はっち」さんの説明についてご質問ご意見をどうぞ。

#### <委員>

- ・ ご説明いただきありがとうございました。
- ・ 今おっしゃられたように、非常にバリエーションにも富んだ、非常に楽しみな企画がたくさんあると思いました。
- ・ 特に伝統文化プログラムについての質問ですけども、こういったものは、展示という形だけで終わるのではなくて、例えば何か記録に残したりですとか、冊子に残すとかそういう形でちょっと参照できたり、アーカイブになるようなことがあるとより意義が出てくるのかなというふうに思っているんですけども、もしもそういったところで何か予定がありましたら、教えていただければと思います。

#### <はっち>

- ・ ご質問ありがとうございます。
- ・ 天羽さんに関しましてはですね、天羽さんがもう70後半ということもあり、書籍をまとめるような話は伺っております。そちらの方とも連動しながら、作品を紹介しつつ本の方で深く知っていただくという流れにしようとお本人とも相談しております。

#### <委員長>

- ・〇〇委員がご指摘された通り、技法とかね、その方が持ってるものは、ご本人に何かあったときに、継承できなくなっちゃう。
- ・ぜひ映像とか記録していただくと良いかなと私も思いました。
- ・他に何かご質問ご意見等ございますでしょうか？
- ・それでは続きまして、美術館の方からご説明お願いいたします。

#### <美術館>

- ・それでは私の方から令和6年度八戸市美術館の企画についてご説明いたします。  
お手元の資料をご覧くださいませ。
- ・まず初めに、概要でございます。
- ・令和6年度の展覧会につきましては、収蔵品をより深く味わうコレクション展を初めとしまして、人気の高い巡回展や、教育版画、八戸圏域の作家を取り上げる展覧会を開催してまいります。
- ・次に、令和6年度の主な企画内容についてでございますが、(1)展覧会についてご説明いたします。
- ・お手元にお配りしております、企画展「展示室の冒険」についてです。
- ・再開館後2回目となります、収蔵品のコレクション展を開催いたします。  
自ら選択した順路で鑑賞できるような仕掛けや鑑賞アイテムを設置しまして、来場者の方々が作品と出会いを楽しみ、一点一点を味わえるような鑑賞体験を提案いたします。
- ・会期は、令和6年4月20日(土)から6月24日(月)を予定しております。
- ・次に、巡回展、「ツペラツペラのかおてん」についてでございます。
- ・絵本やイラストレーションを中心に活動するクリエイティブユニットの「ツペラツペラ」による「顔」をテーマにした展覧会で、人気絵本の原画を始めとしまして、映像作品や体験型の立体作品などを展示いたします。
- ・会期は、令和6年7月6日(土)から9月1日(日)までで、主催は青森朝日放送様で、美術館は、共催として関わります。
- ・次のページに参りまして、企画展「風の中を飛ぶ種子、青森の教育版画」についてでございます。
- ・学校教育の中に版画を広めた教育版画運動。八戸では、坂本小九郎の指導のもと、1950年代から1970年代にかけて実践された教育版画が、国内外で高い評価を受けました。
- ・本展では、当館が所蔵する八戸での教育版画作品を中心としまして、八戸の教育版画が生まれる礎となった青森県内の版画教育の実践を紹介いたします
- ・また、招聘アーティストとともに、市内の子供たちが制作した作品を展示いたします。

- ・会期は令和6年10月12日(土)から、令和7年1月13日(月・祝)を予定しております。
- ・次に、八戸アーティストファイル展でございます。

こちらは、八戸圏域に在住、または出身の表現者を紹介する展覧会でありまして、出展する表現者8名は市内の民間画廊やギャラリー、画材屋さん、私立美術館など、表現者をよく知る地元文化人が推薦者・審査員となって選定していただくことを予定しております。

これまで、地元で紹介されることが少なかった出身表現者を、今回、美術館として取り上げることで、八戸のアートシーンの「今」を紹介する展覧会となる予定でございます。

会期は、令和7年2月15日(土)から4月7日(月)を予定しております。

- ・次に、「AOMORI GOKAN アートフェス2024」八戸企画「エンジョイ！アートファーム！！」についてでございます。
- ・県内の5つの美術館・アートセンターが実行委員会を組織して実施する「AOMORI GOKAN アートフェス2024」の一環として、八戸市美術館のコンセプトであります「出会いと学びのアートファーム」を体現する企画を実施いたします。
- ・美術館を象徴する空間「ジャイアントルーム」で、市内に在住する5人のアーティストが、来館者と共に創り楽しむプロジェクトを行います。
- ・作品鑑賞やジャイアントルームに滞在する作家との交流を通して、絵画や版画、写真、ダンスなど、多様なジャンルのプロジェクトを繰り広げます。

会期は令和6年4月13日(土)から9月1日(日)を予定しております。

- ・次のページをお開きください。
- ・八戸市美術展は、八戸市市文化協会との共催により、全館を使って市民が創作した書道や絵画、写真など多彩なジャンルの作品約500点を展示するものでございまして、会期の前期は、令和6年9月19日(木)から22日(日)まで、後期は、9月26日(木)から29日(日)を予定しております。
- ・続いて、⑦コレクションラボは、他館の常設展に相当する展示となります。  
八戸市美術館の収蔵作品の中から、厳選した作品について毎回テーマを設定し、展示に合わせた実験的なプログラムを行いながら、展示入替の期間を除き通年で展示することで、多彩なコレクションに気軽に触れられる機会を提供させていただきます。
- ・⑧に年間スケジュールを掲載しておりますけれども、年間を通してなるべく切れ目なく展覧会を開催することで、多くの方々が気軽に美術作品に触れられる機会を提供できるよう努めてまいります。
- ・次は、(2)プロジェクトについてですが、アートファーマープロジェクトから順にご説明いたします。

- ・アートファーマープロジェクトは、美術館の企画や運営に能動的に関わる市民スタッフのアートファーマーと美術館スタッフが一緒に美術館での学びを生かして、アーティストとの共同創作活動や、来館者へのガイドなど、美術館と人、作品と人、人と人をつなぐ様々な取り組みを展開してまいります。
- ・令和6年度は、次のページの表にありますように、建築ツアーガイドや野点プロジェクトなどに加えて、未来共創推進戦略（案）にも掲載されておりますが、未来をつくる子どもファーストの推進ということで、広報部やワークショップの設置を予定しております。中心街での中高生の活動場所としての活用も図ってまいります。
- ・次の学校連携プロジェクトは、小・中・高校の美術の先生と学芸員、専門家がチームを作りまして学校の授業で役立つツールやプログラム作りなど、学校教育だけでは実現できない取り組みを行うものです。
- ・次の③大学・高専連携プロジェクトは、市内の大学・高専と連携して、社会人と学生と一緒に学び、社会で実践できるプログラムを展開いたします。  
また、子育て世代、障がい者や高齢者など、誰もが美術館を利用しやすい環境作りなど美術館のアクセシビリティを高める取り組みを行ってまいります。
- ・最後に、（3）その他、元気な八戸づくり市民提案制度「共に創る！アートのまちづくり魅力発見事業」です。  
こちらは、八戸歴史文化発信事業実行委員会、提案者事務局は、当会議の委員でもあります小倉様でございますけれども、そちらと連携いたしまして、当事業に係る美術館の共創パートナーを繋ぎ、各々で行われている文化イベント情報を紹介・連携する取組を行うものです。
- ・スマートフォンアプリ「LINE」を利用したイベント情報発信やホームページ「はちのへヒストリア」との連携、「街なかアートマップ」の作成・配布、パートナーミーティングなどを行う予定でございます。
- ・以上で私からの説明をお願いします。

#### <委員長>

- ・説明ありがとうございました。
- ・ただいまの美術館からのご説明に対しまして、何かご質問・ご意見はございますか。

#### <委員>

- ・はいありがとうございます。来年度、企画の一つ参加をさせていただきます。
- ・主に、5館連携自体もそうなんですけど、多分、青森県内の5つの美術館と連携して行う企画ということで、特色としては他の館が展覧会などを企画することに対して、八戸

は、ジャイアントルームでアーティストがプロジェクトですとか滞在している様子を見せるってところが一つ特徴なのかな、というふうに思います。

- ・一方で、他の美術館の企画もそうなんですけれども、市民に開いているというところではいろいろな試みをされているかと思うんですけども、結局この軸というか、美術館が何を見せて、どういう方針でやっていくことが美術というのは、ちょっと幅が広いんですけども、その中の軸がちょっと見えにくい部分があるのかな、というようには感じました。
- ・たくさんの市民の側に開いて分かりやすくするということは、あくまでも手段の一つなので、それを通じて、少し分かりにくいものを伝えるですとか、少しこういったことを学んでもらうってというような、ちょっと分かりにくいテーマというか、館のコンセプトみたいなものがもう少しこう見えてくると、今の美術館の建物自体がやっぱり人気もあって評判もいいので、来場者の方が県外からもいらっしゃってると思うんですけど、ちょっとこの美術館バブルが終わった後に、なかなか注目されないというか、分かりにくさだけが残ってしまうこともあるのかなと思いました。

#### <委員長>

- ・はい、ありがとうございました。
- ・何か美術館からございますか。特に無いですか。
- ・美術館って名乗らなかった方が良かったかもしれないですね。  
何か工夫が必要ですね。

#### <委員>

- ・前回も少し紹介させていただいたんですけども、割とその市民の方々からも、情報がなかなか入らないという話がこの委員会のアンケートでもあったと思うので、その辺を少しでも改善できればな、という取組になります。
- ・「LINE」は、70代の方でも割とお孫さんの顔を見るためにやってる方も多いので、「LINE」を中心にただ流すってということだけじゃなく、ちょっと念頭にあるのは、うちのヒストリアを使いながら、もう少し多角的な取組ができればなという形で考えています。
- ・あとは特徴としては、共創パートナーになることは必要ですけども、なったら主体は、行政か民間か団体か、場所があるか分からないか、とかっていうことに全く関係なく平等に情報を発信したいということになります。

<委員長>

- ・ありがとうございます。
- ・他に何かご質問、ご意見等ございますでしょうか？はい、お願いします。

<委員>

- ・様々な企画が来年度も予定されていて、市民からの声とか、いろいろなことも取り入れながら工夫されているのがすごく伝わってきたんですけども、実際に企画展とか、取り組みをされて来館者数とか実際にお客様の反応っていうか、思ったより来たとか来ないとか、そこら辺の数字的なものとかも見せていただくと、応援している市民の1人としては、より安心するっていうか、実績がどうなのかっていうところと、やっぱりせっかく街に新しくできた文化施設だと思いますので、周りの商店とか、そういったところへの波及効果っていうやっぱりね。他都市を見ていると、そのくらいのインパクトもいけるようにしないといけないんじゃないかなっていうのをすごく思うので、そのあたりの実績や目標設定みたいなのところも今後お示しいただければ有難いなと思いました。

<委員長>

- ・そうですね。
- ・中期的にはちょっと議会对策とかもあるので、そういったデータとかもあると良いかもしれませぬ。
- ・他になにかございますか。

<部長>

- ・今日は来年度の話を中心にやってもらって、年度が終わったら、前年度の実績について報告するような形をとりたいと考えております。

<委員>

- ・さっきの〇〇先生の話にも少し近いのですが、割と美術館が、現代アートをよく出してっていう、それが現代アートに慣れていない方々にとって、いまいち近づきにくいような話だったり、基本的なことをやってくれという、その基本的なことって一体何なんだっていうところがあるんですけども、その中で、実は美術館はこうやって見ると、コレクション展、地元の所蔵品を毎年しっかり扱っていたり、コレクションラボだったりというところが、意外とすごくやっているなって、今気づいたんですけど。
- ・私は、もうちょっとその部分の事業ありますよっていうことを、統一的にわかるように明確化した方がいいんじゃないかなと思います。

- ・「展示室の冒険」というのは、これも良いのですが、でもこれはそのうちの一つ、その軸の一つ、継続的に行われている軸の一つってというような印象があまりない。
- ・人によっては本当にこれ見たときに、現代アートかなと思う人もいます。
- ・なので、出し方は良いですけど、やっぱりその軸っていうものが実はしっかりあるっていうのを、明確化するっていう見せ方、っていうのはちょっと工夫されていいのかなと思います。
- ・あとはもう1つ、あんまり出てないんですけど、最初に構想のときからすごくいいなと思っていたのが学校との連携の部分ですね、これがこんなにしっかり力を入れて学校と組んでるパターンって珍しいなって思ってるんです。一時期、教育系のところ、いろいろ見させていただいたことがあったんですけども、これぐらい力を入れてるところというのはそんなには思っていて。  
ここに関しても、さほど伝わっていないと思うので、なのでこの2つに関しては、おそらくよく言われる基本的なところっていう部分にがっちり入ると思うので、ここに関してはもうちょっと伝える能力というか、工夫っていうのが必要かなというふうに思います。

#### <委員長>

- ・はい、ありがとうございました。
- ・確かにそうですね。今、〇〇さんがおっしゃったように、例えばこういう報告のときも、先ほどの「はっち」の報告のように、街としても基本コンセプトはこうです。  
それにのっかってこういう資料で、という立て付けの方が分かりやすいかもしれない。
- ・他に何かご質問ご意見、はい、どうぞ。

#### <委員>

- ・はい、美術館が好きで、いつも見に行くんですけども、人は結構少ないながら来てると思うんですけども、そこにあの場所の特殊性というか、美術館の特殊性もあって、入ってから、次の例えば何か色々展覧会やってる所までに行く、みんな足が遠のいている感じがするんです。
- ・美術館に行って、その空間をぐるっと回って、何やってんのかなって行って見ると、すーっとまた帰っていく人がいたりして。
- ・なので、せっかく人が美術館に来て、そこからその企画展とか有料なやつに入っていく導線を何か考えるといいんじゃないかなと思ってて。
- ・何か入ったら賑やかな何かやっているとか、やっぱり美術館って日常であり非日常であり、その交差するところだと思うんで。

- ・入ったら、そこをガチっと掴むような何かがあると良いなって、いつもぼーっとそこに滞在しています。以上です。

#### <委員長>

- ・はい、ありがとうございます。他に何か美術館に関して、よろしいですか。
- ・はい、それでは続きまして、教育指導課さんよりご説明をお願いします。

#### <教育指導課>

- ・用意した資料は、レジュメ1枚と参考資料でカラーのものを作っておりますけども、主にレジュメの方で説明させていただきます。
- ・教育指導課で担当している事業の中で、文化芸術とかまちづくりに関係あるものをピックアップしたものでございます。
- ・まず一つ目、二つ目については「本のまち八戸」に関係する部分で、マイブック推進事業は、小学生にブッククーポンを2,000円分配するというので、こちらは全国的にも珍しいとかですね、他にない取り組みで継続して行っております。
- ・近年は、本当に90何%という消費率とかですね、ほとんどの子が使っているという状態でだいぶ浸透していると思っております。
- ・それと関連してですね、二つ目の学校図書館支援事業でございます。  
こちらはいわゆる学校の図書館、図書室を整備していくものなんですけども、そのために人員配備として、市で学校司書と呼ばれる人を13名任用しております、65校の小・中学校に全て週1回程度派遣するというものでございます。
- ・今までは学校の先生が、空き時間や放課後を使って、図書室を整備していたために、古い本が残ったままだったり、環境整備がされないままに放置されていたものを、定期的に行って整備することで常に魅力ある図書館、図書室づくりが進んでいくのではないかと考えております。
- ・詳しくは参考資料の方に、図書室の写真を載せておりますので、後ほどご覧いただければと思います。
- ・続きまして3番、広域的体験学習支援事業と呼ばれるものです。こちらについては、簡単にいうとですね、社会科見学する際のバス代を補助します、という事業でございます。
- ・なかなか今ですと貸切バスといっても、金額が高くて、子どもたちが社会科見学に行こうってなると、1人2,000円集めないといけないとかですね。
- ・それであると、かなりもういろいろな施設に行く機会が失われてしまうということで、そこを支援するためのものでございます。

- ・昨年度からは、中学校にも対象を広げまして、中学生の場合は市内の企業、特に誘致企業中心にですね、企業見学あるいは就業体験っていうもの。  
また、訪問に行った際には、午後から今度は大学さんの方に行かせていただいて、学食体験とかですね、地元の大学も回るといようなメニューになっております。
- ・4つ目です。文化庁の補助事業についても、参考載せましたけれども、これ令和5年度からは、直接文科省に学校が申し込む仕組みになってまして、ちょっと私達の方で把握してないですが、やっているかと思われます。
- ・その次（5）のコミュニティ・スクール推進事業。こちらについては来年度からですね、新規で取り組む事業として、私達教育委員会の大きな目玉として考えてるものです。
- ・こちらについては、今までも学校の方では、地域や家庭と連携していたのですが、それをさらに強化していこうということで、学校を社会に開いていくという取り組みで、それによって学校だけじゃなくて、地域づくりとかまちづくりっていうものにも力を入れていこう、というような事業でございます。
- ・特に中学生とかは、それぞれですね、地域、地域において、特に第二中学校などは、街中のいろんなポスター作りでしたっけね、街にあるポスター作りを担当したということもあって、いろいろな形でまちづくりに貢献してくれています。
- ・最後（6）STEAM教材開発事業ということで、こちらも今年度から新規に始めたものですが、このSTEAMって言葉を聞いたことがある方もいらっしゃると思いますが、いわゆる科学的なものとアートを統合させて、文系も理系も教科も関係なく、総合的に学んでいくというような教育でございます。海外では結構メジャーになっていますが、日本ではまだまだ浸透してなくて、おそらく5年後以降に、こういうのが中心になってくるはずですよ。
- ・そこを見越して、八戸市では「JAMSTEC」という深海調査をやっているところと、手を組みまして、全国に先駆けて教材を作るということを今始めております。  
特にこの科学技術のSTEAMだけじゃなくて、このアートの部分っていうものが非常にこれからの子ども達に大事になってくるなと考えていまして、今まで学校教育でやっていた、○をつける×をつけるとか、正解・不正解というような考え方から、そうじゃなくて、正解の無い問いをどうやって学んでいくかっていうことを、これからも子ども達にはしっかりと力をつけていきたいな、と思っておりますので、こういう取組を八戸でやっているということで紹介させていただきました。
- ・以上です。

<委員長>

- ・はい、ご説明ありがとうございました。
- ・ただいまの教育指導課からの説明について、何かご質問、ご意見はありますでしょうか。どうぞ。

#### <委員>

- ・すごい良い取組が多いかと思うんですけども、コミュニティスクール事業なんですけれども、ちょっと参考資料の図を見させていただいたんですけども、地域密着型教育コーディネーターが、地域のボランティアやサポーターと連携・協働。これは基本的に募集とかっていうような形をとっているように見えているんですが、その方法とか期間とかはどうなるのかな、と。

ちょっと思っているのが、割と教育委員会や学校さんが関係を持っている地域の人たちと、例えばこういうアート系の人たちや例えばまちづくりの人たちが関係を持っている民間の活動している人、美術館が関係を持っている人たち、これって結構分かれているって思うんですね。

- ・でも実際この地域で、となったときに、そういった多様な人たちがあらゆる形で、子どもの教育に関わって地域で育てていこうということだと思うので、そう考えたときに教育委員会のチャネルだけで募集するってということになると、やはり既存のメンバーの枠を出ない。

- ・それが中期的にも、結局そればかり行われていると、今までの活動の付け替えみたいな感じになって終わってしまうかな、と。

- ・特に今は、そのUターンで来ている方々とか多いですし、若い方々は特にそういう方が多いんですけども、そうなってくると、やはり他の行政内での他の課の人達にもこの辺は共有していただいて、それぞれの課が、やはりそこに関連・関係を持っている市民や活動している方々に、こういうことも学校関係とか地域のところでできますよっていうことをそっちからも説明していただくってような機会がないと、なかなかしかもこれ地域づくりとまちづくりというところまでしてくるとなると、やはりこれまでの学校の域をかなり出た取組だと思うので、そうすると街づくりは街づくりでやってる方々とかってというのがいたりとかすると、やはりそういうような取組が必要じゃないかなと。

そうじゃないと結局、校長先生が終わった方とか、先生を終えた方々とかそういうところの活動だけで終わってしまうとちょっと勿体ないな、っていうのが1点です。

- ・もう1点は、STEAM教材開発事業等なんですけれども、そこはすごく面白く良い取組だと思うんですけども、これが今後行われていってなったときに、今回は八戸ということもあって、この海洋関係で教材を作っていくということだと思うんですけど

も、この制作過程ですね、教材を作っていくにあたる過程っていうのをしっかり技術を集積していただいて公開していただくような、要は今後、海洋関係以外でも、こういった取組をやるときに、その経験ややり方っていうのがしっかり活かされるような、やりやすくなるような形でその教材作りの過程を蓄積し公開していただきたいな、というふうに思います。

#### <委員長>

- ・はい、ありがとうございました。
- ・大変、十分なご意見をいただいたなと思います。

#### <教育指導課>

- ・はい〇〇さん、ありがとうございます。
- ・〇〇さんには、実はもう既にたくさんご協力いただいております、白マドの映画の上映についてですね、このコミュニティスクールの形のコーディネーターと一緒に、いろいろ企画をやっていただいておりますので、ぜひそういう形が今後広がればいいなと思っておりました。
- ・先ほどご指摘いただいた、市役所内でもしっかりと連携すべきという点については、先週、市長からも指示されております。
- ・私達も例えば市民連携だとか、まちづくり関係するところも含めてですね、いろんな課と情報共有しながらやっていきたいなと思っております。
- ・こちらについては、学校の校長先生・教頭先生が変わっても持続していけるように、地域の方にもしっかりと説明をして、地域が学校をしっかり作っていくんだっていうようなところも考えます。
- ・あと、それぞれの地域ですね、人材不足のところはやっぱり否めないもので、市全体でそういう人材とか、いろいろなところを共有していくっていうような情報共有も大事なかなと思っておりました。ありがとうございます。
- ・2点目のSTEAM教材については、なかなかこの教材を作るスキルというかスキームってのは難しいところなんですけど、自分も教員を経験しながら、あるいはちょっと国の方でも、英語教材を作ってきたというところでこういうのを始めたところであるのでちょっと専門的な分野が多いので、そういうものを残していくっていうのはなかなか厳しいかなと思いつつも、ちょっと他の若い人たちも仲間に入れながら、ちょっとそういうところで、今ここでやっているスキームをですね、伝達していければなと思っておりました。とにかく今は目の前の作ることに専念しております。
- ・はい。ただインターネットで無料で公開されているので、よろしければ検索していただ

いてですね、はい。見ていただけると、これデザインも非常に良くて、ブリタニカさんって教材会社を作ってデザインしてくださってますけども、そういうデザインの面でも勉強になる教材だなと思っておりますので、以上宣伝でございましてありがとうございます。

#### <委員長>

- ・はい、ありがとうございます。
- ・他に何かご質問ございますか。どうぞ。

#### <委員>

- ・ちょっと一点質問といいますか、具体的に明記がなかったのでお聞きしたかったんですけども、外国籍の子どもたち、結構最近増えてきていてそういった人たちの支援っていうのはかなり重要になってきていると思ってまして、この学習支援のボランティアですとかサポーターの方々の部分がそこに当たるのかな、と思うんですけども、例えばNPOさんとかですとかも結構関わっていて、週末なんかいろいろな学校から、外国籍の子どもたちが公民館に集まってきて勉強を教えたりみたいなことをされていて、かなり手弁当でされている部分もあるので、そういったところはもっと連携といいますか、何かできるといいのかなと思います。
- ・また、例えばそういった週末のボランティア教室なんかですと、いろんな各校になると少しずつしかいないような外国籍の人たちが集まることで、情報交換できたりとか、ちょっとコミュニティみたいなのができたりとかする部分もあって、そういったところともうちょっと連携がうまくできるといいのかな、というふうに思いまして、何か企画というか、お考えがあればお聞きしたいと思います。

#### <教育指導課>

- ・はい、ご指摘ありがとうございます。
- ・まさにここ数年というか、さらにここ1年で非常に高くなってるものが、この外国籍の子どもたちが各学校にいて、今までっていうかですね、今でもNPO法人みちのく国際日本語教育センターさんにご協力いただいて、週に何日かサポートに入っていたいてるんですが十分とは言えない状況であります。
- ・一方で、そういう方々も人が減る中で、日本語を話せない外国籍の子どもがどんどん増えており、あとは国の方もかなり多様化していて、国のコミュニティそのものも頼れないっていうようなことも結構聞いていましたので。
- ・ここについてはちょっと県とか国にも今相談しながら進めていかなきゃいけないところ

- だとは思いますが、やっぱり今、あの、市民活動としてやっていただいている  
いわゆるそういう土日のそういうコミュニティ作りというものにもちょっと関与しながら、  
コミュニティスクールとしても、そこは気にしていきたいなと思っておりました。  
・ご指摘いただきありがとうございます。

#### <委員長>

- ・はい、ありがとうございました。
- ・他に何かご質問・ご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。
- ・それでは社会教育課の方からご説明をお願いいたします。

#### <社会教育課>

- ・社会教育課です。
- ・すみませんちょっと資料がないものですから、口頭で説明させていただくことをご了承  
ください。
- ・社会教育課からは、2つの事業についてご説明申し上げます。
- ・1つ目が、「民俗芸能の夕べ」開催事業でございます。
- ・前回の会議で、令和5年12月2日に行いました「第46回民族芸能の夕べ」につきまして  
皆様にご紹介させていただいたところでございます。  
中居林大神楽さん、八太郎おしまこさん、矢沢神楽さん、塩町えんぶり組さんの4団体  
で開催いたしました。
- ・来場者につきましては、310人の方々がいらっしゃいまして、令和4年度に開催したとき  
に比べ100人増えておりまして、結構盛況であったと考えております。
- ・令和6年度に関しましては、11月30日土曜日に開催する予定でして、こちらの北緯40°  
ナニヤトヤラ連邦芸能交流祭と併催の予定となっております。

- ・この北緯40° ナニヤトヤラ連邦といいますのは、八戸圏域、二戸圏域、久慈圏域の3圏  
域が、合同でイベント等ですね、何か連携できないかということでやるものでございま  
して、今回通常の「民俗芸能の夕べ」は4団体なんですけど、特に二戸圏域、久慈圏域、  
さらに八戸圏域から5団体を出しまして、全部で9団でやる予定となっております。
- ・こちらの方ですね、前回の会議で、まず周知をもう少し徹底した方がいいんじゃない  
か、子どもさんに来ていただいた方がよろしいんじゃないか、ということで御指摘も  
いただいておりますので、来年度に関しましては4月早々ぐらいに団体を決めさせ  
ていただきまして、周知を始めたいと思いますし、あと学校の方にも、周知の方出させ  
ていただきまして、子どもさんたちにもこういうものがありますよ、というところを

伝えていきたいなと思っております。

- ・あともう1つ。アーカイブですね、映像とかアーカイブにしたらいんじゃないか、というご指摘いただいておりましたので、来年からですね、アーカイブ、映像の記録の予算の内示も出ましたので、こちらの方ですね、アーカイブに努めてまいります。
- ・後は、10月に文化創造推進課さんの方で三陸国際芸術祭と石見神楽とかですね、お呼びすると、開催したりお呼びするというで伺っております、10月に「民俗芸能のタベ」を近い日程にできないか、ということいろいろちょっと打ち合わせさせていただいたんですが、やはりちょっと今回9団体と大所帯であることと、会場の都合もあって、やはり通常通りの11月30日土曜日というスケジュール感でやらさせていただくことになりました。
- ・もう1つの事業なんですが、八戸圏域文化財魅力発信事業でございます。
- ・こちらの事業はですね、八戸連携中枢都市圏の事業の一つとなっております、八戸市のほか、三戸郡の6町村とおいらせ町の1町ですね、計8市町村で連携して事業を行うものであります。
- ・元々行政の区割りですと、文化財の活用が区切られてしまうっていう、その縛りがございましたので、それを行政の垣根を取り払って、ちゃんと面的に活用しようとか考えておりました、この事業を始めたものでございます。
- ・今回その八戸圏域連携中枢都市圏の中で行うのが、八戸圏域文化財魅力発信事業と申しまして、これはですね、文化財バトルカードというものを、手段として用いるものでございます。
- ・この文化財バトルカードというのは、あの全体ですね、それぞれ自治体からの代表的な文化財をカードにしたものになりまして、このカードを見ていただきまして、その文化をまず知っていただく、その後、文化財はどこにあるんだろうというところに興味を持っていただきまして、実際に現地に足を運んでいただくということを趣旨としたものでございます。
- ・令和4年度から各自治体の小学校におきまして、ワークショップを経まして、いろいろアンケート等を取りまして、令和5年4月22日から、42種類のカードをですね、圏域で21ヶ所において配布を開始したところでございます。
- ・現在のところ、大体1万2000枚ぐらい、既にはけておりました、既に合掌土偶を置いておりました是川縄文館ですとか、史跡根城のカードを置いておりました博物館、あとDC-351っていうですね列車が置いてある五戸の郷土館。これらは全てカードがはけてしまったというふうに伺っているところでございます。

- ・もちろんそのような、カードが売り切れて無くなってしまったところについて、もう1回集めることができないかっていうご意見をいただいておりますので、来年度カードの増刷を行う予定でございます。
- ・さらに7月22日から約半年間、配布が過ぎたんですが、やはりいろいろ圏域内またがっておりますので、カードが集めにくいとか、ルールがわかりづらいといったご意見もいただいております。
- ・それで、カード集めにくい、といったご意見に対しては、やはり受身の姿勢ではなく各施設で待っているだけじゃなく、いろんなイベント等にブースを出展いたしまして、カードを配布すると。例えば、南郷文化祭のときも我々の方がブースを出展しまして配ったり、いろいろ工夫しております。
- ・さらにルールがわかりづらいついていうのは、説明書を付けているんですが、やはり文字ではわかりづらいという声に対しては、今後動画とかを撮影して「YouTube」で配信して、視覚的にもっと分かりやすく、やっていこうと考えております。
- ・こちら、令和8年までこの事業が進んで参りますので、いろいろ工夫しながらですね、みなさまにより良い文化財に興味を持っていただけるように努めてまいる所存でございます。以上でございます。

#### <委員長>

- ・はい、ご説明ありがとうございました。
- ・ただ今の説明について何かご質問ご意見等ございますでしょうか？
- ・それでは続きまして是川縄文館さん、お願いします。

#### <是川縄文館>

- ・是川縄文館です。よろしくお願いたします。
- ・是川縄文館より、令和6年度の事業計画の主なものをご説明いたします。
- ・まず1ページの(2)企画展示、夏季特別展でございますが、(仮称)「縄文の編み／組みの探求」についてでございます。
- ・令和4年度より、金沢大学と共同で、編組技法から見た縄文時代の技術知の解明をテーマに研究してきた成果を紹介する展示でございます。  
共同研究で明らかになった中居遺跡から出土した籃胎漆器、繊維・編組製品の素材や、製作技法から、縄文時代の植物利用や資源管理を探知します。
- ・期間は、7月13日(土)から9月8日(日)までで、期間中の毎週土曜日には、学芸員によるギャラリートーク、特別展考古学講座を1回、ワークショップなどを実施する予定でございます。

- ・ 秋季企画展は、合掌土偶の国宝指定15周年を記念して、仮称でございますが、「合掌土偶ができたころ-風張1遺跡とその周辺」を開催いたします。  
風張1遺跡をはじめとする、縄文時代後期の八戸の遺跡や出土品について紹介し、当時の人々の暮らしに迫ります。
- ・ 期間は10月5日(土)から11月24日(日)までの予定としております。
- ・ 次に(3)教育普及についてでございますが、主にボランティアを対象としたサポートスタッフ研修会や小学校5年生から中学校3年生までを対象とした、「これかわ考古学クラブ」を例年通り行うほか、各種縄文体験講座を開催いたします。
- ・ 2ページの是川遺跡クリーンデーは、令和2年度から継続して行っている市民参加型の清掃活動で、是川遺跡の重要性や保存意識を育むために行っているものでございます。
- ・ 遺跡調査報告会は、その年の発掘調査の最新情報を、市民の皆様へ情報公開する機会としております。
- ・ (4)の埋蔵文化財発掘調査は、個人住宅建築や長芋作付などに伴う発掘調査の他、報告書を刊行いたします。
- ・ 2ページから3ページにかけての(5)是川遺跡の整備活用ですが、現在進めている第1期整備のうち、中居遺跡南側を対象とした造成工事や整備検討委員会などに取り組んでまいります。
- ・ その他、例年どおりヤギの除草や、史跡の公有化を継続して行ってまいります。
- ・ 世界遺産の保存と活用では、各種会議に出席する他、世界遺産登録PRとして、ラッピングバス1台を運行する他、東京駅、上野駅、名古屋駅など、デジタルサイネージによる広告の上映や、JR北海道の新幹線車内誌に広告を1ページ掲載する予定でございます。
- ・ 3ページの(8)広報・情報発信は、「広報はちのへ」の連載掲載や、デーリー東北や東奥日報への広告掲載、ラジオ出演、図録などの刊行、オリジナルグッズなどを継続してまいります。
- ・ 前回の会議でご意見いただいておりますので、縄文館のホームページ以外にも、市の公式SNSや内容によっては、「こどもはっち」のSNSなどで情報発信しております。
- ・ 最後に3ページから4ページにかけての(9)八戸縄文保存協会と連携した活動についてですが、1階のミュージアムショップ喫茶コーナーの運営やボランティア激励セレモニーの開催、今年度再開した是川情報祭の開催、地元「妻ノ神えんぶり組」による演劇鑑賞会、令和2年度より開催している「是川縄文の日」を実施していく予定としております。
- ・ 今年度は、コロナ5類移行で人の移動が活発になったこと、猛暑による外のイベント・活動が厳しかったことなど、事業をやるうえで見直しが必要となったものもございましたので、来年度は今年度の経験を生かし、より楽しんでいただける取組をしてまいります。

たいと考えております。

以上でございます。

<委員長>

- ・ はい、ご説明ありがとうございました。
- ・ ただいま、是川縄文館のご説明について何かご質問・ご意見ございますでしょうか？  
はい、お願いします。

<委員>

- ・ 土偶マイムは来ないですか。

<是川縄文館>

- ・ はい、ありがとうございます。土偶マイムが出演する予定は無いです。
- ・ すいません、またお声がけしても良いかもしれません。合掌土偶国宝指定15周年を迎えますし。

<委員>

- ・ 結構皆さん、次来たら見たいっておっしゃってますし。  
機会があったらぜひお願いしたいのと、ぜひ積極的にPRしていただけるといいな、と思います。

<是川縄文館>

- ・ 土偶マイムをやった、高橋健さんという先生なんですけれども、学芸員の方で、そういった声をいただけると喜んでくれると思・います。
- ・ それを確実に伝えたいと思いますので、もし実現しましたらぜひ参加していただきたいと思・います。

<委員長>

- ・ ぜひ、熱い声があったとお伝えください。ありがとうございます。
- ・ 他に、ご質問ご意見等ございますか。
- ・ では続きまして、図書館さんからご説明をお願いします。

<図書館>

- ・ 八戸市立図書館です。

どうぞよろしくお願いたします。

申し訳ございません。今回資料がございませんので、口頭で説明させていただきます。

・図書館の、R6年度事業から2点ご報告いたします。

・まず一つ目です。

八戸市立図書館本館は、来年度、市立図書館の前身である八戸書籍縦覧所が明治7年に設置されてから、150周年を迎えることとなりますので、150周年記念事業を実施する予定としております。

・内容としましては、図書館の歴史を紹介するパネルの作成と展示、また講演会、あと記念誌の作成と記念グッズの作成も予定しております。

・博物館との連携事業、市民のための歴史講座のテーマも150周年にちなみまして、書籍や図書館に関することをテーマに、江戸時代や明治時代を対象とした講師をお呼びする予定でございます。

・詳細につきましては、まだ具体的なところは決まっておきませんので、決まり次第、「広報はちのへ」ですとかホームページの方で周知してまいりたいと思います。

・続きましてもう1件についてです。今ですね、記念すべき150周年と申し上げたのですが、実は、図書館本館が長期休館をいたします。

・そちらのご紹介となります。

・八戸市立図書館本館は、冷房設備等更新工事のために、令和6年3月1日から7月31日までの予定で休館となります。

休館中の代替サービスも今いろいろと検討しておりましたので、そちらについてご紹介させていただきます。

・まず1つは、新聞・雑誌の閲覧会場を開設いたします。3月5日より、毎週火曜日から土曜日までの日程で、YSアリーナ八戸というスケートリンク、そちらの2階ホワイエというスペースの一角をお借りしまして、図書館職員が立ち合いまして、当日の新聞から過去1週間分、17紙程度の閲覧を予定しております。

あと最新号の雑誌ですね、27誌程度を持っていきまして、閲覧に供したいと思います。

・また、移動図書館を活用しまして、図書館に移動図書館車が1台ありますけれども、そちらを活用しまして、臨時貸し出しを4月と5月で、各月5回ほど実施するつもりでおります。

・場所は、図書館本館の車庫。車庫の前のスペースに移動図書館車を停車させまして、棚を車庫内に設置しまして、皆さんが返却した本を並べて利用者の皆さんに貸し出しするというを考えております。

・工事中はですね、職員でさえも中のフロアに入ることができなくなってしまいますので、本を取り出すことができない状況となってまいります。

- ・また、おはなし会につきましては、図書館で毎週土曜日開催していたんですけども、場所を八戸ブックセンターに変えまして、毎週土曜日ボランティアによる読み聞かせをする事になっております。
- ・また、移動図書館車は通常通り運行しますし、分館である南郷図書館及び図書情報センターは通常通り開館しております。
- ・今回の更新工事につきましては、冷房の設備だけではなく、館内の照明のLED化と防犯カメラの更新も併せて行うこととなっておりますので、工事終了後は、より良い読書環境を皆様に提供できるものと思っております。
- ・まず図書館本館はですね、古文書もございますし、地元紙ですね、昭和20年代から保存しております地元紙など、図書館でしか見ることができない資料もたくさん抱えている中での休館となり、市民の皆様あるいは古文書とかに関しましては、全国の研究者の皆様にご不便をおかけしてしまうんですけども、エアコンが壊れて、猛暑の中、事務室も暑くてというようなこともございまして、どうしても工事せざるを得ない状態となっておりますので、皆様には、ぜひご理解いただきまようお願いしたいと思います。
- ・また、休館明けにつきましては、それぞれまた周知してまいります。
- ・なお予定していました事業につきましても、工事の進ちょく状況等により、対応ができたりできなかったりという変更の部分もございますので、その点につきましては、図書館のホームページをこまめにチェックしていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
- ・以上です。

#### <委員>

- ・ご説明ありがとうございました。
- ・私も図書館大好きで、本当に調べものとか、見つからないっていうものが無いぐらいいろいろな資料があって、いつも助かっているの、休館ということでとても残念なんですけれど、2つお聞きしたいことがあります。
- ・1つ目は、休館中図書館で働いてる皆さんが何をされているのかなっていう、要は例えば普及活動的なことだったり、どのように過ごされるのかということです。  
あとは、自分は図書館が好きなので、せっかくりニューアルオープンしたときに、何かお祝いみたいなセレモニーがあったら盛り上げに行きたいな、という2つです。
- ・まだ、ブックセンターさんとか八戸の中にも本の施設がいろいろありますけれども、ひょっとして、利用する層って結構限定的なんじゃないかなと思って、もっとたくさんの方が知って出入りをしたら、今のような日本最古の公共図書館とかそういうことを、

もっともっと知ってもらって活用してもらったら、より貴重な資料が生きてくるんじゃないかなと思うので。

- ・その、閉館中の取組というのも大事になってくるんじゃないかなと思ってお聞きしました。

#### <図書館>

- ・ありがとうございます。
- ・まず休館中の対応については、職員が館内にいる場所がないものですから、正職員は、本庁の4階に事務室を移転しまして執務をすることになっております。
- ・図書館は3階あるんですけども、工事に入るのは1階2階部分で、3階は少し立ち入りができますので、その書庫の部分にパソコンとか移動させまして、できる業務をしようということで今いろいろ計画をしています。
- ・ただ、今申し上げたとおり、移動図書館車っていうのは、月11日稼働してるんですけどそれは通常通りやりますので、そちらが利用が増えるだろうということで、人員の配置を増やしております。
- ・あとは、YSアリーナでの新聞の閲覧とかにですね、1日午前午後人員を分けて3人ずつ立ち会わざるを得ないです。
- ・新聞の利用については、職員が立ち会うということで、1日に6人必要になってくるっていうのと、臨時貸し出しにおいては、土曜日と月曜日、4月5月に5回ずつ予定しているのですが、私どもの試算では1日15人張り付かないとそれでも人数がちょっと足りないぐらいの混雑になるのではないかと考えております。  
なので、その人員確保っていうのをやっていきますと、意外と思ったように、本来であれば調査等書庫の整理ですね。
- ・やはり昭和59年に図書館が建てられてから収蔵書がどんどん増えている中で、その中でちょっと場所の移動であるとか、そういったものをしていきたいなということも思っております。
- ・で、そうですね。そういう風に休館中も場所を移動して、YSに毎日行かなきゃいけないとか、毎日返却になる本はございますので、そういったものを毎日整理していく。
- ・あと、普通にですね新刊の購入とか新刊雑誌、新聞というものは、通常通り入ってきますので、そういったものの整理ということも考えております。
- ・休館中に、何とか書庫の整理っていうのをやりたいのと、あとは寄贈いただいた資料が大量にありまして、整理が進んでいないものがございましたので、この機会に目録を整備したいなと考えております。
- ・そして開館時のセレモニーはすいません全く考えておりませんでした。なので、館内で

検討させていただきたいと思います。

ご意見、ありがとうございます。

#### <委員>

- ・ありがとうございました
- ・決して休暇中に休んでるとかそういう質問では無く、どういう仕事があるのかなって  
いうのを知りたかったんで、とても勉強になりました。

#### <委員長>

- ・忙しいんですね。長期バカンスになるわけじゃない、はい。
- ・他に何かご質問ご意見ございますでしょうか。

#### <委員>

- ・工事中の2ヶ月なんですけれども、おそらく中の工事だけで外に足場組むとかじゃない  
と思うんですけれども、その工事の様子を、外から見えるようにしたらいいんじゃない  
かなと。
- ・せっかく窓ガラスで中が見えるような設計ですし、天井剥がしたりとか、そういう普段  
とは違う様子っていうのは面白くて見たい人もいるのかなというふうに思います。
- ・以前、根城公民館の建替えのときに、その建替えの流れを写真に撮ったりしながら、工  
事中の足場のところで見せていたりしたんですけれども、もう直接、工事の作業をして  
いる様子が見えたりとかっていうのは面白いかなと思います。
- ・そのときに、その周りに150年の歴史のパネルなのかなんなのか、それを紹介するような  
組み方をするのも面白いのかなと思いました。

#### <図書館>

- ・はい、ありがとうございます。
- ・実はですね、工事中にですね、天井とかを全て剥がしたりというその搬入に、私達が  
予想していたよりも大型車が、図書館のあの正面まで入ってくるということが、先日の  
業者との打ち合わせで判りまして、図書館では返却ポストを設けてるんですが、あそこ  
は休館中は24時間どなたでも返却できるようにしているので、そこに人が入ってきます  
よと。なので、図書館の前のフロアに市民の方が結構出入りしますよっていうことを  
業者さんに伝えたところですね。
- ・そこを実は、休館中だから人がいないと思ってたので、大型車を入れて搬出・搬入を  
しようと思っていましたと。

- ・ ちょっとそれだと、急に人が出てくるというようなところも危ないので、人が、正面玄関の方に入れないようにバリケードをして、返却口だけに行けるようにしようというような話とかをしまして。
- ・ なかなかですね、一般の方がこの図書館の近くに行くってというのはですね、実は図書館のエアコンの室外機とかは屋上にあるんですね。それを全てクレーンで吊って、入れるという工事もございまして、そうなりますとやはりクレーン車があると、周りに人がいられないという、その日程とかは、なかなか事前にちょっと報告できないかと思いついて、あんまり一般の方に敷地内に入る機会はちょっと少なくなるかなと思ってるんですが。
- ・ 今ですね、まだちょっと図書館で出来てないのですが、館内の工事の様子を撮影しましてホームページとかXとかで公表できないかなと思っております、なかなか私どもです工事現場に立ち入ることはちょっとできないので、ちょっと近くから写真撮らせていただいて、それを今こんな状況ですとか、足場組みました、とかいうように紹介したいなということも検討はしております。
- ・ 直接市民の方が、公園の方から、窓ガラスがあるので中を見ると、もしかしたら見れるかもしれないので、公園の方からは見ていただけると思います。  
正面の方は、ちょっと今のところ立ち入れないスペースが多くなるかなと考えております。
- ・ 以上です。

#### <委員>

- ・ Xとかで公開するのであれば、なおさら見たいっていう人が増えると思うんですね。
- ・ そうすると、逆に公園の方から、場所を指定しておいて、こちらから見てくださってという形にして、正面に立ち入らないでくださいという形にした方が、安全面も良いと思うので、四方があるんだから、おそらく工事も打ち合わせすれば大丈夫な場所ってあると思うので、そこを確保して、そこから見るという形をしっかりと作った方がいいのではないかなというふうに思います。

#### <委員長>

- ・ 工事現場マニア。逆にそういう積極的な方が安全対策として、良いかもしれませんね。
- ・ 他に何かご質問ご意見ございますでしょうか？よろしいでしょうかね。
- ・ それではお待たせしました。
- ・ 最後の方、博物館からご説明お願いします。

## <博物館>

- ・ それでは博物館です。よろしくお願いいたします。
- ・ 博物館の令和6年度事業概要についてご説明いたします。資料をご覧ください。  
主なものとしては、1 特別展の開催、2 企画展等の開催、3 教育普及活動の実施となります。
- ・ また、分館である南郷歴史民俗資料館では、展覧会等の開催と講座・体験行事を実施しております。  
それではまず博物館事業からご説明いたします。
- ・ 1 特別展は、毎年夏と秋の2回開催しております。  
夏季特別展として、「きらめく八戸ー写真・新聞で見る昭和40年代ー」を開催する予定です。
- ・ 本展では、八戸の黄金期といえる昭和40年代を、写真パネルや新聞記事で紹介し、当時を振り返りながら、八戸の今後を考える機会とするものです。  
会期は、7月20日から9月16日までを予定しております。
- ・ 秋季特別展は、「境界線上の彼女たちーねね・鶴姫・南部麻ー」仮称ですがけれども、こちらを開催する予定です。
- ・ 本展は、八戸が歩んできた歴史の分岐点にあって、大きな役割を果たした3人の女性に目を向け、数少ない資料を手がかりに、各時代の背景を踏まえながら、彼女たちの実像に迫るものです。  
会期は10月5日から11月24日までを予定しております。
- ・ 2 企画展等は例年と同様の開催になりますが、新収蔵資料展については、令和5年度の寄贈資料が例年より多かったため、民俗と歴史に分けて2回の開催となります。
- ・ また、えんぶり展・ひな人形展は、現在同一会期で実施しておりますが、令和6年度は、えんぶり展はえんぶり期間中を、ひな人形展は、3月3日を中心にした期間にずらしての開催となります。
- ・ 3 教育普及活動は、例年通り、博物館クラブ9回、大人の博物館クラブ2回、図書館と連携した市民のための歴史講座を4回などを開催する予定です。
- ・ 次に、裏面になりますけれども、南郷歴史民俗資料館事業についてご説明いたします。
- ・ 特別展は、「こけしーみんな なかよしー」を開催する予定です。  
こけしは、東北地方に伝わる郷土玩具ですが、戦後にたびたびこけしブームが起こり、様々なこけしの制作やコレクターによる収集活動が隆盛していきました。
- ・ 本展では、今なお愛好されるこけしについて各系統などを紹介しながら、その魅力を伝えるものです。
- ・ 次にミニコレクション展は、今年度開催中止いたしました「そば展」、そばをテーマ

とした、展覧会になります。

耕作の農具や、そば打ちの道具などの展示を行う予定でございます。

- ・ 講座体験行事は例年通り、館外講座4回、館内講座1会、体験講座4回実施する予定です。
- ・ 最後に、本日お配りしましたチラシがございますけれども、現在開催中のえんぶり展とひな人形展のチラシがございます。  
企画展につきましては、3月10日まで開催しておりますので、お時間がございましたら、ぜひとも博物館の方にお越しいただきたいと思っております。
- ・ もう一点、両面カラー刷りのチラシになりますが、こちらは昨年6月27日に重要文化財に指定され、今月の9日に指定書の交付を受けました櫛引遺跡出土品の写真になります。
- ・ こちらも博物館に展示してございますので、ぜひともお越しいただければと思います。  
以上で博物館事業の説明を終わります。

#### <委員長>

- ・ はい。ご説明ありがとうございました。
- ・ ただいまの博物館さんのご説明についてご意見等ございますでしょうか？
- ・ 大丈夫ですかね。
- ・ それでは、事業計画は終わりました、(3) その他ということで、本日の会議の中で言い足りなかったこと、委員の皆さんの最近の動向についての情報提供がございましたら、あと事務局の方の中でもですね、ご発言いただきたいと思っております。

#### <委員>

- ・ 本日、各担当の方々からご説明いただいて、本当にいろんな事業が今年度、来年度も計画されているということで、ぜひ何か多くの方々に本当に見に行く人を増やすということをしなければならない、という風に思って、自分も身の回りで1人で行かないで、誰かと一緒に行くとか、少しでも体験を一緒にしていきたいなと思ったんですけども、これだけいろんな取り組みや場所があると、市民もそうですし、観光客もどれだけ施設があって、どれがあるのかって把握仕切れないであろうな、と思うんですよね。
- ・ だから一覧みしたいなものになっていて、全て網羅しているような何か、マップまでいなくていいと思うけど、説明が載ってて、QRコードが載っていてそれが何でもいいと思うんですけど、そういう発信の仕方について、ひょっとしたらこのアート広場なんかでも、一度どうやって発信したらより多くの人に関心を持ってもらえるかっていうことを

そういうことが得意な方とか招いてですね、その情報発信についても、一度そういう場を用意した方が良いとすごく思いました。

- ・ 前回のアート広場のときに、知り合いがやっていたら行くとか、意外とハードルは実際は低いものだというお話あったというコメントがありましたけれども、ひょっとしたらデザインがちょっとかわいかったら参加してみようかな、とか。
- ・ 本当、そういうちょっとしたことで足を運ぶ動機っていうのは、意外と簡単なところにあるのかなと思うので。
- ・ あんまり難しい形での文化施設みたいな発信ではなくて、もっと気軽にちょっとポップな楽しい場所って感じてもらえるようなデザインであるとか、そういう発信の仕方を考えていくと、栗本さん専門だと思いますけれども、そういうネットの情報の届き方というか、言葉の選び方というのも、もうすごく大事でこれだけたくさんあるのでもったいないな、と。
- ・ あと、私も3枚ほどチラシ入れさせていただいて、今川和男って私の父なんですが、展覧会があったりですね。
- ・ あと、「昼飲み部」っていうお酒と料理出しているイベントが毎月1回ありまして、3月2日は、その日にあたりして、いろんな人が集まるコミュニティみたいな出来上がってきつつあったりするので、ぜひ興味あったら来ていただきたいです。
- ・ あとちょっと、黒っぽいチラシで演劇のチラシをお入れしてまして、劇団短距離弾道ミサイルという仙台が拠点の男性だけの演劇チームがあるんですが、彼らが今回で解散するというので、もう15年ぐらい活動してたんですけれども、解散公演ということで、八戸では、今までも3~4回ぐらい自主公演に来ていて、「酔っ払いに愛を」に出演しているということで、八戸に思いがあって、ラストの公演で八戸に来ますので、3月の15日~16日「はっち」のシアター2で開催します。広報をお手伝いしております、もうとんでもなく飛んでいる役者たちの作品ですので、ご興味ある方はぜひ見納めしていただければと思います。

#### <委員長>

- ・ はい、ありがとうございます。
- ・ 他に何かどうぞ

#### <美術館>

- ・ 先ほど何人かの委員さんからいろいろご意見とかご提案いただいたのですがコメントさせていただいておりませんでしたのでいただきたいです。いろいろなご意見ありましたので、参考にさせていただきたいと思っております。

どうもありがとうございます。

<委員>

- ・ ちょっとお聞きしたいんですけども、東方先生とか川守田先生、あるいは行政の方でもやったことがある方々にお聞きしたいんですけども、今回の話の中でも何度かアーカイブの話が出てきたと思うんですけども、しっかり予算を取って、時間をかけてかっちりしたものを作るっていうのはなかなか大変なことが多いと思うんですけども、そんな中、本当に今は携帯も持ってますし、金額がもっと低いレベルでもアーカイブ化っていうのが必要なのかなと。
- ・ それこそ、地域というか地区の歴史であったり、いろんなものをもうちょっと気軽に撮ることによって重ねないといけない、追いつかないんじゃないかな、というふうに思っていました。
- ・ それに対して、アーカイブ化の基本的な技術だったりとか、そういったものを教わる機会とか、例えば講座的にするのであれば、大体何回ぐらいとか、そういうのを実際やってる方がいるとか、何かそういう情報というか、どういうものなのかなというのを、ちょっとざっくりして申し訳ないですけどお聞きしたいなと思います。

<委員長>

- ・ あると思いますよ。特に、普段のアーカイブを考えますと、物もそうですけど、デジタルが必須になりますよね。
- ・ そういうテクニク的な部分の講座って結構あると思いますし、あと、意外と気づかないで配慮しなきゃいけないのは、著作権とかの問題、その動画とかに写っている例えば肖像権だとか、映り込みの問題とかもあって。
- ・ きちんとそこら辺を抑えることができないと、その撮ったものを公開ができないということがあるので、それは確かにどっかできちんとやった方がいいかもしれないですね。

<委員>

- ・ できれば市内でそういうのをレクチャーできるような方がいれば、多分いろんな場所で、いろんな形でいろんなレベルで、学生も含めたいろんなレベルで必要なのかなと思うんですよね。
- ・ なので東京とかどっかから呼ぶとかっていうよりも、地元でそういったことを教えていただける方が確保できて、数人いればいいのかなと思うんですけども、その辺はどうなんですか。

<委員>

- ・博物館とかそういったちょっと専門のところで一度取りまとめたりする必要があるかなとは思うんですね。

例えば、仙台のメディアテークとか、ああいったところは結構アーカイブに力を入れていて、メディア資料をアーカイブしたりですとか市民の方が撮ったもの。

何かそういったキーコンセプトを持ってアーカイブすると、民俗学的にもそういったもの、例えば昔のチラシみたいなのが、博物館的な価値を持つように多分発生していくと思うんですけど、結構指針というか取り方みたいなのをきちんとルールというかフォーマットを定めて、市民の方々に提供してもらおうとか。事情書みたいな書いてもらうとか、何かそういったことをすると市内でも結構アーカイブというか、形作っていきけるように思います。

<委員長>

- ・すごく大事なご指摘ですよ。
- ・例えば今僕ら美術館にいますけど、美術館ってそもそもアーカイブの施設じゃないですか。

収蔵品もアーカイブなんだけど、それを見せるために、コレクション展やりますと。その記録としてカタログを作ります。

- ・だけど、意外と展示の光景のアーカイブってなかったりするんですよ。
- ・どういう展示やったんだらう。例えば映像撮ればいいんですけども、実はほとんどの美術館はそれを残していない。
- ・意外な落とし穴とか、気づきがいっぱいあるんです。

<委員>

- ・大学ではそういうことをやるっていう方っていうのは。
- ・大学でも、アーカイブって結構何回か撮っているんですか。

<委員長>

- ・琉球大学が専門に、そういうアーキビスト養成講座ってやっていますよね。
- ・八戸全体で考えても良いテーマですよ、これね。
- ・それこそアート広場で1回ぐらい取り上げてもいいような。

<委員>

- ・結構もう、時間が無いなっていう感じがしています、正直言って。

<委員長>

- ・日々消えていって。

<委員>

- ・本当に歴史関係の方も毎年亡くなったりとか。
- ・本当にもうここ3年ぐらいで亡くなるだけじゃなく、認知症になったりとかしていくと、本当にもう語れる方がいなくなっていて、その辺の内容に関しても、ちょっと今、ヒストリアの方とミュージアムで昔の郷土関係の本、書籍関係を寄贈してもらって、将来的にちょっと1ヶ所で公開できる場所を作ろうと思ってるんですね。
- ・要は、今、古書店も今無くなってしまったので、昭和時代に積み重ねてきた郷土関係の書籍がもうどんどん捨てられて無くなってしまう。
- ・図書館には確実にあるんですけども、でも図書館もそのような資料をすでに所有していれば、それ以上受け入れる余裕は当然ないでしょうし。だから今断ってる現状だと思うんですね。そうすると、もう市内では図書館しかなくなるっていう未来が近いんですよね。
- ・そうすると図書館で見ない方には、もう存在すらしていないっていうものになってしまうので、もうちょっと今あるものを集めて目に見える場所に置くような取り組みをしないと、正直言ってヒストリアやってみて思ったんですけども、ネットには情報はたくさんあるんですけども、郷土に関する情報っていうのはめっちゃめっちゃ限られてるんですよね。
- ・観光関係だったりとか、本当に同じことばかり、もう何度刷ってるんだってぐらい。
- ・もうちょっと地味なものとかっていうのはなくて、やっぱりそういうものが今後はネタになっていくと思うので、やっぱりそういうのを留めておく必要があると思う。
- ・それは、今はやっぱり書籍にある。書籍ともう80歳、70歳以上の人にあるっていうところなので、そこをちょっと何とかしないとっていうのがあって、その一つでちょっとアーカイブはちょっと考えなきゃいけないのかな、というふうに思いました。

<委員>

- ・私も研究所でそういう資料とかを集めるときに結構苦労して、実はその文献になったものもそうなんですけど、例えば小倉学さんという偉大な方がいて、その周辺にある例えば小倉さんが集めたその資料とか、その本当にプライベートなところにあるような資料とかも、その方が亡くなったら散逸する傾向にあって、そういうのも可能であれば残せると良いと思う。

- ・ただし、やはりプライベートな部分なので、その方およびその家族の方、ご遺族の方にも十分に配慮しなければいけないというところがあって、難しい事情があるということとは伺ってました。
- ・ただ、市美でやる「大久保景造と八戸文化」とか、そういう企画とかすごくいいなと思っていて、そこに繋がるような、その方が亡くなったら消えてしまうところでも、そこの中には、八戸の歴史とか文化に関わる、様々な非常に得難い情報が詰まっているので、そこをちょっと残す取組とかがあってもいいなと思います。
- ・これは、伝統工芸でも一緒に、天羽（あもう）やよいさんという、私は孤高の作家と呼んでるんですけども、非常に素晴らしい、全国的にファンも多い方なんです。ただ、その方の意向を最優先しなきゃいけないんですけど、そういう方っていうのはやはり、自分が取り組んでいるものに対して様々な情報収集をしているので、それを含めて何か残すと、そのものについても後追いつける人が、ちゃんと情報を得られるコンテンツが残るので、ちょっと地味なんですけれども、そういうところもちょっと取り組んでいただけるとありがたいな、というふうに考えています。

#### <委員長>

- ・ありがとうございました。
- ・問題提起ということで継続的に議論していきたいと思います。
- ・他に何かございますでしょうか？

#### <委員>

- ・美術館の話ですが、私は、「AOMORI GOKAN」の冊子を担当しましてやっと校了してって感じですが、結構、広報の仕方に苦戦しているところがあって、やはり先ほどの東方先生のご意見にもありましたが、なんか軸が、というお話があったと思いますが、何かふわっとしているところがあって難しいと思いました。
- ・例えば、青森の教育版画とか、引きがあるとメディアとかにも取り上げられやすいのかなと思うんですけど、例えば左下についている「虹の上をとぶ船」とかはあれですよ、『魔女の宅急便』の元になった作品ですよ。そういう、もうちょっと引きのあるものを前面に出せないのかな、と思っております。
- ・ジブリはハードルが高いかもしれないけど、タイトルにちょっともう少し分かりやすさを出したりとか。
- ・何かそういう観点からいくと、八戸市博物館の企画展名とかも、他の別の館で行っている展示にも当てはまりそうな展示・展覧会名だなと思っていて、私とかは記事を編集したり書いたりする際には、写真が小笠原諸島の写真だとして、別の地域の名前がついた

らそこだって思っちゃうみたいなことはしない、というか、何かその1枚の絵で絶対これは小笠原諸島だって分かるような、1枚の画像で表現しないといけないとか、見出しで表現しないといけないとか、ということを中心掛けております。

- ・雛人形展、例えば東京で雛人形展っていうのをやったら、どこでも当てはまりそうな感じがあるので、何かここにしかないオリジナルの展覧会名はちょっと考えられないのかなと思う
- ・例えば、「本当はちょっと怖い雛人形展」とか分かんないんですけど、例えばフックになるような何かを引っ張ってきてそれで構成するとか、考えられないのかなと思っていて、そういう意味で言うと何かコピーライターの方に、1度研修みたいなものを開いて頂いたりすると、ブラッシュアップできるのかなと思いました。

<委員長>

- ・情報の伝え方って大事ですよ。はいどうぞ。

<美術館>

- ・ご意見いただきましてありがとうございます、
- ・すみません。私の聞き漏らしだと思うんですけども、ちょっと確認させていただきます。
- ・「この虹の上を飛ぶ船」の版画が、ジブリの作品に採用されたということで、そういったところもPRに使っていた方がいいんじゃないかっていうご意見いただいたんですけど、それっていうのは企画展の「風の中を飛ぶ種子」という版画展に関して、そういったところをPRした方がいいんじゃないか、というご意見ということでよろしかったでしょうか？

<委員>

- ・はい。
- ・例えばだったので、それぞれの展覧会の引き、つまりフックになる部分ということで。

<美術館>

- ・はい、ありがとうございます。
- ・皆さんから注目を浴びるようなポイントみたいなものを、それぞれの展覧会のときに何かしら見つけて、そこをPRしつつ周知した方が良いというご意見ということでよろしかったでしょうか。

#### <委員>

- ・はいそうです。何か教育版画展ってだけだと、すごく教育的な側面が強まって、一般の人は興味を持ちにくい。例えば、全然わかんないですけど、時代によって描いているものが違うというところが面白いのであれば、それをタイトルにしても良いでしょうし、何か子どもの心の変遷とか、それとも時代が違うけど同じものをモチーフに描いているのであれば、それを集めてコーナーにするとか、そういう何かしらフックになるものがあると、メディア側の人間としては、こういう見せ方してるんだ面白いな、と思って取り上げるんですね。
- ・それぞれの展示でそういう目線で、タイトルにもちょっとそれが反映されると割と分かりやすくいいな、と思っています。

#### <美術館>

- ・はい、ご意見ありがとうございます。

#### <委員長>

- ・ジブリも参考にしたあの版画を君は見たか！とか。
- ・他に、ご意見・ご質問はよろしいでしょうか？
- ・皆さん、どうもありがとうございました。
- ・これで本日の議事は全て終了となりますので、進行を事務局にお返しします。

#### <事務局>

- ・事務局から連絡がございます。
  - ・まずは、委員長をはじめ委員の皆様、本日はどうもありがとうございます。
  - ・こちらですね、はちのへ文化のまちづくりアドバイザーボードでございますが、来年度の話ですが、6月ですね、委員改選の時期となります。
  - ・後日、委員の皆様には、個別にですね、改めてご相談させていただきますのでよろしくお願いたします。
  - ・なお、令和6年度の会議ですけれども、その委員の改選に合わせて、第1回目ですね、これまた委員長とご相談したいと考えておりますが、6月下旬から7月はじめに改選時期を迎える都合上、そのあたりにできればと思っておりますので、具体的な開催日時につきましては、改めて委員の皆様にご相談させていただきますので、よろしくお願いたします。
- 以上です。

<司会>

- ・最後に、本日は今年度最後の会議となりましたので、部長の前田より、委員の皆様へ一言ご挨拶申し上げます。
- ・部長よろしく申し上げます。

<前田部長>

- ・はい、本日は大変ありがとうございました。
- ・大変、中身の濃い会議だったと考えております。
- ・先ほど、大西リーダーの方からもありましたけれども、令和4年の6月にですね、皆様に最初の第1回の会議ということで委嘱をさせていただきまして、スタートして約2年弱ということで。
- ・スタートは、各文化施設の見学などにご協力いただき足を運んでいただき、また三社大祭ですとか八戸えんぶりをご覧いただきました。
- ・会議の中でも様々なご意見をいただき、今日の各課からの話の中でも、前回の意見を踏まえてこういう見直しをしました、というような話も複数あったかな、と思っております、非常に実りのある会議だったと考えております。
- ・文化のまちづくりプランというのを作ってですね、体系的に文化政策を進めていこうということでスタートしたわけですが、何となくここにきて少し形が出来てきたかなというような感じもしておりますし、また逆に、プランには書いたけれどもまだまだ手がつけられていない、というのもあるのかなというふうに思っておりますし、手はついたけれども、これからもっと中身を濃くしていかなければならないという分野もあると思います。
- ・いずれにしてもそういった形でですね、少し幅広く目配せしながら、これからも取り組みを進めていきたいなと思っております。
- ・委員の皆様には、改選ということですが、我々とする引き続きお願いしたいなというふうに思っておりますけれども、さまざま個別のご事情もあろうかと思っておりますので、それにつきましては改めてですね、個別にご相談をさせていただきたいと思っております。
- ・まずは、今年度最後ということでございますが、2年間の活動に対しまして、御礼を申し上げます、挨拶とさせていただきます。  
ありがとうございました。

<司会>

- ・以上をもちまして、令和5年度第3回はちのへ文化のまちづくりアドバイザーボード

会議を閉会いたします。

委員の皆様、各課出席者の皆様、本日はありがとうございました。

終了